

肺結核ニ對スル副腎皮質「ホルモン」(「インテ レニン」)及ビ「ビタミン」C(「アスコルチン」) 併合療法ニ就テ

東京市養育院醫局(主任 碓居博士)

醫學士 藤 井 信 次 郎
醫學士 片 桐 仁 禮
醫學士 永 井 澄
醫學士 齋 藤 達 雄
醫學士 津 本 淳 三

緒 言

副腎皮質「ホルモン」ハ1930年 Swingle u. Piffner ガ副腎皮質ヨリ分離シ、アヂソン氏病ニ使用シテ有效ナリト報告シテヨリ、急性傳染病及ビ慢性傳染性疾患タル肺結核ノ治療ニ應用セラル、ニ至レリ。

急性傳染病ニ於テ、其ノ毒素作用ガ副腎ニ病變ヲ惹起セシムルコトハ既ニ Virchow, Beitzke, Dietrich u. Siegmond 等ガ認メタル所ニシテ、Dietrich ハ重症敗血性疾患ニ於テ、副腎皮質ニ「リポイド」脱落、核溶解ヲ伴ヘル細胞崩壞、充血、浮腫、高度ノ出血等ノ變化ニ就テ詳細ニ報告セリ。斯ノ如キ副腎皮質ノ變化ハ或ル特定ノ傳染性疾患ニ限ラズ各種傳染性疾患ニ認メラル、所ニシテ、Thaddea ハ傳染性疾患ニ現ハル、特定ノ症狀群、則チ血壓降下、下痢、色素沈著、高度ノ瘦削、食慾減退、皮膚蒼白、體溫降下、無氣力等ハ副腎皮質脱落症狀ナリトセリ、而シテ實扶的里中毒ニ陥ラシメタル實驗動物ニ副腎皮質抽出製劑ノミ與ヘタルニ、海猿ハ依然死滅セルモ之ニテ併合シテ生命ヲ保持セシムルヲ得タリ。這ハ副腎皮質製劑ハ副腎皮質中ニ他臟器ニ比シテ最多量アリトセラル、Vc

ノ缺乏セルヲ以テナリトセリ。

1928年 Szent Györgyi ガ牛副腎ヨリ強力ナル還元物質ヲ獲テ、之ヲ Hexuron 酸ト稱シ、次デ之ガVcト同一物ナルヲ認メ、更ニ皮質ニハ他臟器ニ比シテ最多量ヲ含有セルコトヲ報告セリ。次デ1932年 Cox, Hirst, Karrer, Micheel 等ハ構造式ヲ決定シ、左旋性「アスコルビン」酸ト命名シタリ。

翌年 Reichsten Oppenhauer, Young 等ハ此ガ人工合成ニ成功セリ。Vc ハ一種ノ觸媒作用ヲナスコトハ一般ニ認メラル、所ニシテ、細胞ノ機能ヲ上昇セシムルモノナリ。

Hoffmeister 等ハ急性傳染性疾患ノ際高度ニVcノ消失スルヲ認メ、此ガ缺乏ハ細胞機能ヲ低下セシメ、急性傳染性疾患ノ經過ヲ不良ナラシムト稱セリ。P. György ハ各種傳染性疾患ニVcヲ使用シテ好結果ヲ得タリト云フ。又Thaddea ハ前記ノ如ク副腎皮質「ホルモン」ハVcニテ其ノ作用增強スルヲ報告シテヨリ、Lerebouillet, Whitehead, Smith, Demole 等ハ各種傳染性疾患ニ副腎皮質「ホルモン」及ビVcノ併合療法ヲ行ヒ良好ニ經過セシメタリ。

急性傳染性疾患ニ認メラレタル如ク、肺結核ニ於テモ、副腎ガ結核毒素ニ依ツテ病變ヲ蒙ル事ハ Neuman, Sylla, Singel, Hausmann, Bronfin, Guttman, 清川、高亀氏等ノ認ムル所ニシテ、此變化ハ主トシテ皮質ニ見ラレ、澱粉變性、「リポイド」減少、退行變性トシテハ更ニ細胞核分解、浮腫等ナリ。肺結核ニ於ケル倦怠感、食慾減退、下痢、羸瘦、色素沈著、皮膚蒼白、血壓降下等ノ症狀ハ一部副腎皮質ノ前記ノ病變ニ基クモノナル事ハ Wiesel, Bronfin, Guttman 等ノ強調スル所ナリ。加藤氏ハ副腎皮質乳劑ヲ結核感染海猿ニ適量注射セルニ、對照動物ニ比シテ結核感染ニ對スル病變ハ輕度ニ止マル事ヲ證明シテ肺結核治療ニ適用ス可キヲ指示セリ、更ニ藤井氏ハ副腎皮質製劑「インテレン」ヲ結核海猿ニ注射シ加藤氏ノ實驗ト同結果ヲ得、次デ結核菌培養試験ノ結果「インテレン」ハ結核毒素ヲ解毒中和シ、結核菌ノ發育ヲ阻止シ、繁殖ヲ制止スルコトヲ認メ、此等實驗ヲ根據トシテ、藤井、野坂兩氏ハ「インテレン」ヲ肺結核患者ニ臨牀實驗シ、著明ナル體重増加、食慾増進、氣分爽快、解熱、盜汗消失、脈搏數減少ヲ認メタリ。

結核ト Vc ノ關係ニ就テハ 1925 年 Schröder ハ結核海猿ニ於テ Vc ノ缺乏セルヲ認メ、次デ

辻本氏、共同研究者ハ肺結核患者血清ニ著明ナル Vc 減少セルヲ報告セリ。而シテ結核動物ヲ Vc 缺乏食ニテ飼養スレバ著シク惡化スルコトハ既ニ Bieling, Hagedorn, Schröder, Couland 等ノ實驗ニテ明ニシテ、山上氏ハ結核海猿ニ於テハ各臟器ガ潜在性壞血病狀態ニ陥レル事ヲ認メ、Hasserbach ハ人結核ニ於テモ斯ル潜在性 Vc 缺乏狀態ニ在リト稱シ、Vc ヲ肺結核治療ニ應用シ良果ヲ得タリト。殊ニ頑強ニ繼續スル小喀血ニ有效ナリト云フ。Mc. Conkey ハ腸結核ニ有效ナリト云ヒ、之レニ反シテ西垣氏等ハ Vc ハ肺結核ニ對シテ好影響ヲ與ヘズト云ヘリ。

Thaddea ハ肺結核ニ對シ、副腎皮質「ホルモン」及 Vc (Redoxon) 併合療法ヲ行ヒ、食慾増進、體重増加、「クレアチン」尿減少、血壓上昇、赤血球沈降速度遲延、血像ハ左側推移ノ輕減ヲ見タリト云ヘリ。本邦ニ於テ未ダ副腎皮質「ホルモン」、Vc 併合療法ヲ行ヘル報告ナキモノ、如シ。余等ハ副腎皮質「ホルモン」(「インテレン」帝國臟器) 及ビ Vc (「アスコルチン」田邊) 併合療法ヲ施行シ、特ニ食慾、倦怠感、脈搏、呼吸、體溫、體重、血壓、血像、血糖、尿「クレアチン」、「クロナキシー」、肺活量、基礎代謝、分時搏出量等ニ就テ檢索ヲ行ヒタリ。

實驗方法

實驗材料 重症ナラズ、症狀ニ著シキ變化ヲ呈セザル男子患者 5 名ヲ選擇セリ。

藥液注射 「インテレン」1 cc 毎日皮下注射、「アスコルチン」2 cc (「ビタミン」含量 100mg) 隔日靜脈内注射、後 20 日間毎日 2 cc、皮下注射。

體重及血壓 體重ハ午前 6 時頃朝食排尿後測定、血壓ハ午前 8 時頃朝食後 2 時間リバロッチ血壓計聽診法ニテ測定。

赤血球沈降速度 ウエスタグレン氏法ニテ朝食前施行。

血液検査 血球計算ハトーマーツァイス氏計算器ニテ、血色素ハザリー比色計ニテ測定、血

像ハ朝食前採血シ シリング氏血球區分表ニ依ル。

血糖検査 ハーゲドルン、エンゼン氏法。耐糖力検査ニハ坂口氏試驗食代用葡萄糖 30gr ヲ用フ。

尿「クレアチン」 フーリン氏法ニテ、特ニ食物ヲ限定セズ。

「クロナキシー」 蓄電器放電法ニ依リ、三浦式萬能「クロナキシーメーター」ヲ用ヒ、直徑 1.5 ㎜ 刺戟導子ヲ使用ス。實驗前患者ハ充分靜止セシメ、驗者及非驗者ノ絶縁ハ充分ニセリ。測定筋ハ左側總指伸筋、淺屈指筋及ビ二頭膊筋、三頭

膊筋ノ上肢代表的屈伸四筋ヲ撰ブ。

肺活量 ヴェルダン氏標準肺活量計ヲ用キ、空腹時坐位ニ於テ數回行ヒ、其ノ最大値ヲ採リタリ。

實 驗

第 1、第 2、第 3 例ハ昭和 11 年 9 月 12 日ヨリ、第 4、第 5 例ハ同年 9 月 23 日ヨリ注射ヲ開始シ、11 月 6 日ヨリハ「アスコルチン」ハ増量シ毎日注射セリ、他ニ處方ハ「ゾオタール」0.5 及乳酸「カルシューム」1、ノミヲ與ヘタリ。

第 1 例

松村某 36 歳 左官職。

診斷 肺結核。

現病歴 昭和 9 年 12 月中旬頃ヨリ咳嗽、喀痰、呼吸困難ヲ覺エ、翌年 1 月中旬熱感、全身倦怠加ハリ、半年程醫治ヲ受ケ、輕快セルモ、其ノ後咳嗽喀痰ハ消長セリ。

昭和 11 年 6 月 12 日左胸部ノ疼痛ト呼吸困難ヲ訴ヘ入院ス、入院後ハ左胸部ノ疼痛輕減ス。本療法施行前。

主訴 本年 9 月上旬以來時々血痰アリ、食慾不振、全身倦怠感、盜汗等ナリ。

注射前所見

體格中等、榮養稍々不良熱感アリ、脈搏 84 大サ及ビ緊張中等、整調、呼吸 24、淋巴腺ノ腫大ヲ見ズ、顔面ハ幾分蒼白、眼瞼結膜正常、舌ハ薄キ白苔ヲ蒙リ、音聲輕度嘶嘎、左胸部扁平シテ、左鎖骨上窩ハ稍々陷凹ス。肺臟ハ左胸部前後面全般ニ濁音ヲ呈シ、中水泡性囉音ヲ聽ク。右肺ハ全般ニ乾性囉音ヲ聽キ、心臟ハ第二肺動脈音強盛ス、腹部四肢ニ異常ヲ認メズ。體溫ハ 37.2—37.5 度便通 1 日 1 回、喀痰ニ血液及結核菌ヲ證明ス。マンロー氏皮内反應(±)、尿検査、所見ナク。糞便ニ寄生蟲卵、潛出血、結核菌ヲ認メズ。

注射後實驗成績

注射後 4 日ニシテ血痰消失シ、以後血痰ナシ。同時ニ食慾ハ漸次増進シ來リ、8 日後ニハ全身

心搏出量 マーシャル、グロルマン氏法ニテ空腹時臥位ニ於テ施行。

基礎代謝 クニッピング氏裝置ニテ測定。

倦怠感ナク、盜汗ハ 10 月初旬迄消失セザリキ、左側胸痛ハ 10 月中旬以後緩和シ、10 月下旬ニハ安靜ヲ命ジタルモ好シク輕度ノ運動ヲナセリ。

胸部所見ハ右胸部ノ乾性囉音消失セル外著明ナル變化ナシ。體溫ハ漸次降下シ 10 日前後ニテ 37 度トナリ、以後モ時々 37.2 度位ニ上昇スル事アルモ大體ハ常溫ナリ。

喀痰量ハ漸次減少シ、血壓ハ療法後期ニ幾分上昇ノ傾向ヲ示シ、體重ハ約 2 疋増加シ、赤血球沈降速度ハ漸次遅延セリ。

赤血球數及血色素量ハ漸次幾分増加ノ傾向ヲ示シ、血像ハ注射前「メタ」骨髓細胞、可成著明ノ左側推移ヲ見タルモ、注射後ハ漸次左側推移減少シ 10 月 5 日頃正常血液像ニ復歸セリ。

血糖ハ注射前、空腹時血糖量 0.111%、試験食後最高血糖量 0.168% ナリシモ、注射後空腹時血糖量及試験食後最高血糖量モ漸次降下シ、11 月 19 日空腹時血糖量 0.079%、試験食後ノ最高血糖量 0.141% トナレリ。

尿「クレアチン」注射後幾分減少ノ傾向ヲ見。

「クロナキシー」注射後總指伸筋ニ於テハ Ch ハ増大ハ、0.408 ニ達シ、Rh ハ之ニ反シ、稍々減少ス。淺屈指筋ニ於テハ Ch ハ稍々増大セルモ著シカラズ。Rh ハ殆ンド變化ナク、爲ニ拮抗筋比率ハ殆ンド 2:1 トナレリ。

二頭膊筋、三頭膊筋ニテハ屈伸筋比率稍々大トナリタリ。即チ Ch 値ハ大體正常値ニ復シタルモノト見做ス事ヲ得。

肺活量。基礎代謝。酸素消費量等一定シ、分時搏出量ハ極ク輕度減少ノ傾向ヲ示スモ殆ンド一定。搏動量ハ増大ス。

松 村

月 日	喀痰量 cc	血 壓	體重 Kg
9月 3日	146		43.2
10日	136	101—68	43.2
12日	→ 注射開始 ←		
17日	100	101—67	42.5
25日	110	107—72	42.5
10月 1日	110	107—68	43.9
8日	107	98—67	43.9
16日	127	101—70	44.0
22日	98	107—70	45.0
29日	100	101—64	45.2
11月 5日	110	99—62	44.3
11日	100	113—79	45.2
18日	121	107—70	45.5
25日	110	111—64	45.5

松 村

月 日	赤血球沈降速度			
	一時間	二時間	中等價	二十四時間
29/VIII	71	114	64	134
10/IX	68	115	63	126
12/..	→ 注射開始 ←			
19/..	49	83	45	125
27/..	50	78	45	128
12/X	55	83	48	130
31/..	36	71	36	123
19/XI	48	80	44	128

喀痰量及血壓ハ一週間平均ヲ記入セリ

松 村

月 日	赤血球數 萬	白血球 數	血色素 量	色素指數	「エオジ ン」嗜好 白血球	「メタ」 骨髓細胞	桿狀核 白血球	分核性 白血球	淋巴細胞	大單核 移行型
8月29日	412	6100	80	0.97	2.7	1	16	35.3	42	3
9月 8日	409	13000	81	0.99	1		14.7	50.3	30.7	3.3
.. 12日	→ 注 射 開 始 ←									
.. 18日	423	4000	85	1.0	0.7		8.7	64	22.7	4
.. 26日	417	9800	87	1.04	0.3		8.3	61.3	26	4
10月 5日	424	9100	90	1.01	2		3.3	69	21	4.7
.. 31日	427	8200	91	1.01	1		5.3	69	20	4.7
11月19日	434	10100	93	1.07	0.7		5.6	63	26.7	4

松 村

時 間 月 日	血 糖 檢 査						
	空腹時	30分	1時間	1時間半	2時間	2時間半	3時間
30/VIII	0.111	0.120	0.168	0.161	0.109	0.091	0.090
12/IX	→ 注 射 開 始 ←						
22/..	0.086	0.129	0.124	0.083	0.104	0.083	0.090
12/X	0.099	0.159	0.094	0.134	0.081	0.077	0.072
31/..	0.063	0.115	0.146	0.119	0.068	0.060	0.062
19/XI	0.079	0.141	0.126	0.079	0.071	0.060	0.061

松 村

月 日	尿量	比重	總「クレ アチン」 mg	「クレ アチン」 mg	「クレ アチン」 mg
9月 4日	4320	1006	1459	1315	144
.. 8日	3950	1007	1088	958	130
.. 11日	4100	1006	1093	947	146
.. 12日	→ 注射開始 ←				
.. 16日	3700	1006	1115	993	122
.. 21日	3960	1005	1355	1254	101

.. 26日	4600	1006	1376	1258	118
10月 1日	4200	1005	1179	1068	111
.. 6日	4300	1006	1147	1028	119
.. 11日	4100	1007	1266	1189	77
.. 16日	3230	1009	1189	1136	53
.. 21日	3460	1007	1107	1024	73
.. 26日	4160	1006	1251	1181	70
.. 31日	3880	1010	1514	1414	100
11月 5日	3920	1009	1251	1182	69

11月10日	3940	1008	1482	1376	104
„ 15日	3400	1007	1372	1276	96
„ 20日	3930	1006	1365	1251	114
„ 25日	4000	1008	1436	1309	109

數字ハ5日間ノ平均ナリ

松村 兩吾 36Lj

月日	Ch(σ)	總指伸筋	淺屈指筋	二頭膊筋	三頭膊筋
	Rh(ν)	0.136	0.100	0.092	0.144
2/XI	Rh	48	30	30	60

8/IX	Ch	0.140	0.112	0.092	0.140	←注射
	Rh	46	30	28	60	
27/IX	Ch	0.112	0.200	0.092	0.140	12/IX
	Rh	35	25	25	55	
12/X	Ch	0.280	0.180	0.088	0.120	
	Rh	30	27	20	50	
29/X	Ch	0.384	0.180	0.08	0.136	
	Rh	22	35	17	40	
14/XI	Ch	0.408	0.168	0.08	0.148	
	Rh	23	35	17	45	

姓名	年齢	月日	體重(Kg)	身長(cm)	體表面(Sq.m)	脈搏	酸費素量消(cc)	基礎代謝	肺活量(cc)	血壓		Minutenvolum			Schlagvolum	
										max	min	L.	pro Sq.m (L)	pro Kilo (cc)	pro Sq.m	
松村 注射→	36	5/IX	41.0	154	1.34	90	218	+20.8	1300	105	75	5.40	4.02	131.5	60.2	45.0
		22/IX	41.5		1.34	72	180	+9.2		108	65	5.35	3.99	129.0	74.5	55.6
		15/X	44		1.38	70	224	+41.		105	70	5.38	3.90	122.2	76.8	55.5
		31/X	45.2		1.40	72	214	+18.3	1400	103	70	5.30	3.88	117.0	73.8	52.5
		12/XI	45.2		1.40	72	206	+16.1	1300	108	90	5.39	3.84	119.5	74.8	
		20/XI	46.7		1.45	54	208	+20.0	1300	108	80	5.20	3.58	111.0	96.2	66.3

第2例

神下某 20歳、印刷見習工。

診断 肺結核。

現病歴 昭和11年4月中旬頃寒冒ニ罹リテ以來、咳嗽、喀痰去ラズ。頭痛及食慾不振ヲ訴へ、喀痰ニ結核菌ヲ證明シタルヲ以テ、4月16日入院、入院後漸次各症狀減退セルヲ以テ6月22日退院セルモ、7月9日再び全身倦怠、熱感強ク、食慾減退ヲ訴ヘテ入院、ソノ後食慾ハ漸次恢復セルモ、熱感、全身倦怠去ラズ、本療法施行前ノ訴ハ頭重、全身倦怠、食慾不振等ナリ。注射前ノ所見 體格中等榮養稍々不良、皮膚ニ熱感アリ、脈搏105、大サ中等、緊張幾分弱ク、呼吸25、兩頰部紅潮シ、左頸部ニ1箇鳩卵大ノモノ、兩腋窩二、三箇ヅツ大豆大ノ淋巴腺ヲ觸レ、舌ニ薄キ白苔アリ。胸部所見ハ左上胸部ハ短濁音ヲ呈シ、背部ハ左肩胛間ニ濁音ヲ呈シ、該濁音部ニ少數ノ有響性雜音ヲ聽ク。心臟腹部、四肢ニ異常ナシ。

體温ハ37.2—38度ヲ上下ス、便通ハ1日1回、喀痰結核菌ヲ證明シ、マントー氏反應強陽性。尿ニハ所見ナク、糞便ニハ寄生蟲卵、潛出血、

結核菌陰性。

注射後實驗成績

食慾漸次増進シ、1週間後ニハ普通量ヲ攝取シ得ルニ至リ、全身倦怠ハ10日頃ヨリ幾分輕快シ、20日後ヨリ訴ヘザルニ至ル、體温ハ注射後5日目頃ヨリ37.5度、15日目ヨリ大體37度以下トナリ、脈搏85—100トナリタルモ、10月29日感冒ニ罹リ、症狀稍々増悪セルモ1週間ニテ治癒シ其ノ後各症狀再び減退セリ。

胸部所見 感冒罹患後ヨリ左胸上部ノ有響性雜音増加セリ。

喀痰量ハ漸次減少ノ傾向アリタルモ感冒後幾分増加セシガ再び漸次減少セリ、血壓ハ10月8日頃ヨリ幾分増加ノ傾向アリタルモ11月11日頃ヨリ減少セリ。

體重ハ11月5日頃ヨリ漸次増加セリ。

赤血球沈降速度ハ漸次促進セシガ、感冒後急進シ、後再び遅延ノ傾向ニアリ。

赤血球數及色素量ハ注射當始ハ著變ナカリシモ後期ニ於テ幾分増加ノ傾向ヲ示セリ。

血像ハ10月29日頃左傾推移増強シ、淋巴球減少セルモ、漸次再び正常血像ニ復歸シツ、アリ。

血糖ハ注射前空腹時血糖量 0.092%、試験食後最高 0.136% ナリシモ、漸次血糖量降下シテ、11 月 14 日空腹時血糖量 0.073%、最高 0.097% トナレリ。尿「クレアチン」ハ 10 月 22 日頃ヨリ幾分増加セリ。

「クロナキシー」ハ注射後 Ch 値ハ總指伸筋及ビ二頭膊筋及ビ三頭膊筋ニ於テ増大シ稍々正常値ニ近ヅキタルモ 11 月 1 日以後再ビ Ch 値低下シ、當初ノ値ニ復ヘレリ。

基礎代謝 注射開始後 1 週間ニテ (+)25.0%迄ニ降下セルモ次デ上昇シ 10 月 30 日デハ (+)47.3%迄ニナリ、11 月 14 日ニ於テハ再ビ降下シ (+)28.4%トナレリ。

肺活量モ之ニ相當シテ一時稍々減少ノ傾向アリシモ最後ノ検査時ニ於テハハ、1900ccトナリ少シク増加セリ。

神 下

月 日	喀痰量 cc	血 壓	體重 Kg
3/IX	31	101—63	44.1
10/,,	18	98—54	44.1
12/,,	→ 注射開始		

17/,,	17	101—56	44.0
25/,,	12	101—56	44.5
1/X	30	101—56	44.0
8/,,	12	105—74	44.6
16/,,	12	109—74	44.4
22/,,	9	104—64	44.8
29/,,	40	108—71	44.6
5/XI	20	107—61	45.0
11/,,	14	101—71	45.0
18/,,	10	102—66	45.3
25/,,	10	102—66	45.3

神 下

月 日	赤血球沈降速度			
	一時間	二時間	中等價	二十四時間
22/VIII	48	91	45.5	131
29/,,	60	97	54.2	132
10/IX	65	98	57.0	132
12/,,	→ 注射開始			
19/,,	68	105	60.3	132
26/,,	76	107	64.7	138
8/X	80	108	67.0	138
29/X	103	118	81.0	136
14/XI	100	116	79.0	136
25/XI	90	108	72.0	131

神 下

月 日	赤血球數 萬	白血球 數	血色素 量	色素指數	「エオジ ン」嗜好 白血球	「メタ」 骨髓細胞	桿狀核 白血球	分核性 白血球	淋巴細胞	大單核 移行型
8月28日	375	13100	72	0.96	3.0		7.0	61.3	23.3	5.0
9月 8日	406	9600	75	0.92	3.7		7.7	59.3	23.6	5.7
,, 12日	→ 注 射 開 始 ←									
,, 20日	415	8400	72	0.86	1.0		4.0	70.0	18.3	6.7
,, 27日	405	10900	72	0.88	2.3		7.3	68.0	13.0	7.3
10月10日	363	10000	71	0.98	2.7		6.7	67.3	19.0	4.0
,, 29日	394	17100	75	0.95	1.7		11.0	67.4	15.3	4.6
11月14日	434	11700	75	0.86	3.0		4.3	64.3	20.3	8.0
,, 24日	428	8700	85	0.99	0.3		0.7	69.0	22.3	7.3

神 下

時間 月 日	血 糖 檢 査						
	空腹時	30 分	1 時間	1 時間半	2 時間	2 時間半	3 時間
2/IX	0.092	0.136	0.119	0.122	0.120	0.089	0.101
12/,,	→ 注 射 開 始 ←						
21/,,	0.084	0.102	0.097	0.086	0.083	0.085	0.083
8/X	0.081	0.099	0.092	0.090	0.097	0.086	0.084
30/,,	0.075	0.108	0.110	0.086	0.083	0.072	0.070
14/XI	0.073	0.097	0.091	0.081	0.073	0.079	0.074

神 下

月 日	尿量	比重	「クレ アチニ ン」 mg	「クレ アチニ ン」 mg	「クレ アチニ ン」 mg
9月 3日	1300	1014	888	818	70
„ 8日	1120	1011	805	730	75
„ 12日	→ 注射開始				
„ 13日	1200	1013	866	769	97
„ 18日	1100	1012	659	623	36
„ 23日	1400	1013	815	723	92
„ 28日	1330	1012	814	723	91
10月 3日	1600	1013	742	723	69
„ 8日	1300	1017	859	754	105
„ 13日	1360	1013	752	675	77
„ 18日	1000	1016	673	598	75
„ 22日	1400	1015	918	764	154
„ 28日	1200	1014	708	597	111
11月 2日	1160	1014	898	810	88

„ 7日	1000	1017	721	595	126
„ 12日	1550	1014	858	739	119
„ 17日	1500	1017	916	796	120

神 下 20Lj

月 日	Ch(σ) Rh(v)	總指 伸筋	淺屈 指筋	二頭 膊筋	三頭 膊筋	
28/VIII	Ch	0.250	0.160	0.088	0.120	
	Rh	72	62	45	70	
6/IX	Ch	0.280	0.168	0.088	0.124	
	Rh	70	60	45	70	←注射
25/IX	Ch	0.408	0.132	0.100	0.200	12/IX
	Rh	45	30	45	65	
13/X	Ch	0.408	0.136	0.112	0.240	
	Rh	40	30	35	65	
1/XI	Ch	0.262	0.116	0.08	0.172	
	Rh	45	30	30	62	
15/XI	Ch	0.172	0.128	0.088	0.244	
	Rh	47	30	40	65	

姓 名	年 齡	月 日	體 重 (Kg)	身 長 (cm)	體 表 面 (Sq.m)	脈 搏	酸 費 量 消 cc	基 礎 代 謝	肺 活 量 (cc)	血 壓		Minutenvolumen			Schlagvolumen (cc)	
										max	min	L.	pro sq.m (L)	pro Kilo (cc)		pro Sq.m
神下	20	23/VIII	44.1	158.5	1.41	104	293	+ 52	1800	130	80	4.44	3.16	100.5	42.7	30.2
		21/IX	43.2		1.40	98	232	+ 25	1800	130	90	4.85	3.46	112.0	49.5	35.4
		8/X	44.6		1.42	105	260	+39.2	1600	125	90	4.52	3.18	101.0	43.0	30.2
		30/X	44.6		1.42	100	290	+47.3	1750	130	85	4.39	3.08	98.5	43.9	30.8
		14/XI	44.5		1.42	94	243	+28.4	1900	130	90	3.88	2.72	87.3	41.3	29.0

酸素消費量モ同様ニ減少シ後、増加シ、再ビ減少セリ。

分時搏出量ハ大體不變ナルモ、最後ニ少シク減少ス。

搏動量 大體ニ於テ一定ナリシモ 1 週間目ニ於テハ稍々増加ス。

第 3 例

金某 33 歳 玩具工場職工。

診斷 肺結核。

現病歴 28 歳左側滲出性肋膜炎ニ罹リ其ノ後全身倦怠、熱感アリタルモ仕事ニ從事シ居タリ。本年 2 月下旬感冒ニ罹リタル後、咳嗽治癒セズ、次第ニ食慾不振、喀痰多量トナリ、本年 8 月 6 日左胸部疼痛、呼吸困難ヲ訴ヘテ入院、入院後呼吸困難消失シ、食慾増進ヲ見タルモ、尙左側胸部ニ疼痛、全身倦怠、熱感アリタルヲ

以テ本療法ヲ試ミタリ。

注射前所見 體格中等、榮養稍々不良、皮膚ニ熱感アリ、幾分乾燥ス。脈搏 78、大サ、緊張中等、整調、呼吸 25、淋巴腺腫脹ヲ認メズ、顔面ハ稍々蒼白、眼瞼結膜正常、舌ハ稍々乾燥、薄キ白苔アリ。胸部ハ形狀ニ異常ヲ認メザルモ、左胸上部ハ濁音ヲ呈シ、右肺尖部ハ短濁音ヲ呈シ、聽診上左肺全般呼氣延長シ、銳性ニシテ、時々左肺上部ニ小水泡性囉音ヲ聽ク。尙左胸側下部ニ摩擦音ヲ聽ク。右肺上部呼氣延長ス。心臟ハ第二肺動脈音強調ノ外ニ異常ナク、腹部、四肢ハ著變ナシ。體温ハ 37.0—38.0 度ヲ弛張シ、便通 1 日 1 回、喀痰ニ結核菌ヲ證明シ、マントー氏皮内反應(卅)尿ニ所見ナク、糞便ニ寄生蟲卵、潛出血、結核菌陰性。

注射後實驗成績

食慾ハ漸次増進シ、注射後約半ヶ月ニシテ、全身倦怠感緩和ス。尙左胸部疼痛ハ去ラズ。尙時々體温ハ漸次降下ノ傾向ヲ示シ、注射後10日ニシテ37.2度ヲ弛張ス。経過幾分良好ニ向ヒシモ、10月15日下痢シ、以後體温漸次上昇シテ、10月22日頃ニハ38.5度ニ上昇、同時ニ左側胸部疼痛増悪シテ穿刺ノ結果滲出液ヲ見タリ。然レドモ其後體温幾分降下シ始メ、11月3日以後ニハ37.3度位ヲ以テ経過セリ。

胸部所見ハ10月20日頃ヨリ左胸上部ニ濕性囉音増加シ、左側下部ノ摩擦音著明トナル。喀痰量ハ注射後幾分増加シ、下痢後頓ニ増加ス血壓モ漸次増加、體重ハ注射後漸次増加セルモ下痢後再ビ減少セリ。

赤血球沈降速度ハ注射後モ漸次促進シ、下痢後一時急進セルモ、11月20日ヨリ再ビ遅延ス。赤血球數及血色素量ハ注射當初ハ幾分減少セルモ、ソノ後ハ幾分増加セリ。

血像ハ注射前左側推移稍々著明ニシテ、「メタ」骨髓細胞ヲ認メタルモ、注射後左側推移輕減セルニ下痢後ハ再ビ増強シ、「エオジン」細胞消失セリ。

血糖ハ注射前空腹時血糖0.115%、試験食後最高0.148%ナリシモ、漸次減少シ10月9日空腹時血糖量ハ0.081%試験食後ノ最高0.128%トナレルガ、11月16日再ビ幾分増加セリ。

尿「クレアチン」ハ注射後減少セルモ、下痢後増加ス。

「クロナキシー」ハ途中合併症ヲ生ジタルタメ一時中絶セルモ、總指伸筋ハ最後ニ減少ヲ來シ、

淺指屈筋ハ増大セリ。

基礎代謝ハ最後ニ増大シ、肺活量ハ最後ニ稍々減少ス。酸素消費量、分時搏出量ハ増大シ、搏動量ハ稍々減少セリ。

金

月 日	喀痰量 cc	血 壓	體重 Kg
9月 3日	52	96—66	49.7
„ 10日	50	101—70	49.8
„ 12日	→ 注射開始 ←		
„ 17日	99	106—71	50.5
„ 25日	130	104—66	51.8
10月 7日	98	101—58	51.3
„ 8日	103	109—67	51.9
„ 16日	157	108—70	51.8
„ 22日	300	108—72	50.0
„ 29日	210	103—67	50.4
11月 5日	190	110—78	50.3
„ 11日	260	107—71	50.2
„ 18日	270	116—70	50.0
„ 25日	420		50.1

金

月 日	赤血球沈降速度			
	一時間	二時間	中等價	二十四時間
8月29日	50	83	45.7	126
9月10日	53	98	51.0	133
„ 12日	→ 注射開始 ←			
„ 19日	66	131	65.8	145
„ 27日	60	134	63.5	143
10月 9日	65	135	66.3	144
„ 19日	101	137	84.8	148
11月20日	66	135	66.5	145

金

月 日	赤血球數 萬	白血球 數	血色素 量	色素指數	「エオジン」嗜好 白血球	「メタ」 骨髓細胞	桿狀核 白血球	分核性 白血球	淋巴細胞	大單核 移行型
8月28日	391	5900	73	0.93	3.3	1.7	10.3	49.3	30.7	4.3
9月 8日	385	6600	72	0.93	1.7		15.3	55	23.3	4.3
„ 12日	→ 注 射 開 始 ←									
„ 19日	373	5200	65	0.87	2		8.7	54.3	30	5
„ 26日	420	7400	69	0.82	2		8.3	56	26	8.3
10月 9日	412	6900	71	0.87	3.3		6	56.7	27.3	6.7
11月21日	439	6400	85	1.01	(—)		9.3	63.3	20	7.0

金

時 間 月 日	血 糖 檢 査						
	空腹時	30分	1時間	1時間半	2時間	2時間半	3時間
30/VIII	0.115	0.127	0.148	0.124	0.117	0.108	0.102
12/IX	→ 注 射 開 始 ←						
24/IX	0.082	0.118	0.124	0.144	0.124	0.103	0.085
9/X	0.081	0.128	0.088	0.082	0.076	0.087	0.079
16/XI	0.093	0.158	0.0131	0.125	0.100	0.096	0.096

金

月 日	尿量	比重	總「ク レ アチ ニン」	「ク レ アチ ニン」	「ク レ アチ ニン」
			mg	mg	mg
2/IX	1550	1011	908	816	92
6/,,	2450	1008	972	825	147
11/,,	2070	1008	916	772	147
12/,,	→ 注射開始 ←				
16/,,	1900	1011	1019	879	144
21/,,	2160	1008	1001	859	142
26/,,	2200	1010	985	927	58
1/X	3000	1007	1263	1176	97
6/,,	2600	1009	923	836	87
11/,,	2700	1010	826	732	94
16/,,	2600	1011	777	698	74
21/,,	2040	1015	1119	919	100
26/,,	1300	1015	906	787	119

31/,,	1362	1013	552	351	201
5/XI	1650	1010	825	546	279
10/,,	2350	1011	675	602	73
15/,,	2420	1011	1021	863	158
20/,,	1800	1008	900	780	120

金 32Lj

月 日	Ch(σ) Rh(v)	總指 伸筋	淺屈 指筋	二頭 膊筋	三頭 膊筋	
1/IX	Ch	0.308	0.108	0.084	0.120	
	Rh	50	67	47	72	
10/IX	Ch	0.312	0.112	0.088	0.126	
	Rh	50	65	50	70	←注射
26/IX	Ch	0.128	0.088	0.08	0.120	12/IX
	Rh	42	60	40	78	
29/XI	Ch	0.104	0.116	0.08	0.116	
	Rh	45	30	35	50	

姓 名	年 齡	月 日	體 重 (Kg)	身 長 (cm)	體 表 面 (Sq.m)	脈 搏	酸 費 素 量 c.c	基 礎 代 謝	肺 活 量 (c.c)	血 壓		Minutenvolum			Schlagvolum (c.c)	
										max	min	L.	pro Sq.m (L)	pro Kilo (c.c)		pro Sp.m
金 32 注射→		24/VIII	49.5	167	1.54	60	249	+25.8	1700	120	80	3.98	2.58	80.5	66.3	43.0
		13/X	48		1.54	72	243	+24.0	1700	90	55	4.5	2.95	93.5	62.5	41.0
		17/XI	50		1.55	80	300	+48.0	1600	120	80	5.08	3.27	101.2	63.5	40.8

第 4 例

宮澤某 42歳、「メリヤス」行商。

診斷 肺結核。

現病歴 昭和5年2月頃ヨリ咳嗽、喀痰アリ、同年3月下旬大量喀血ス。其ノ後尙ホ時々小喀血アリタリト。昭和11年7月14日入院、同年9月4月約100cc喀血。本療法施行前ノ主訴ハ全身倦怠、夕刻ニ起ル悪寒、血痰等ナリ。

注射前所見 體格中等、榮養稍々不良、皮膚乾燥、熱感アリ、左頸部ニ鳩卵大ノ淋巴腺連珠形ノモノヲ觸ル。脈搏76緊張中等、整調、顔面紅

潮、舌ハ薄キ白苔ヲ蒙リ、胸部ハ右鎖骨上窩陥凹、右胸部全體濁音ヲ呈ス、中等水泡性囉音ヲ聽ク。左肺上部ハ呼吸延長シ、銳シ。心臟ハ第二肺動脈音強調ノ外異常ナク、腹部四肢ニ著變ヲ認メズ。體温ハ37.5度便通1日1回、喀痰ニ結核菌(+)、マントー氏皮膚反應(+)、尿検査ニ所見ナク、糞便ニハ寄生蟲卵、潛出血、結核菌陰性。

注射後成績

食慾ハ全經過中稍々良。血痰ハ注射後次第ニ薄ク1週間後ニハ全ク消失シ、全身倦怠感緩和

ス。體溫ハ10月15日頃ヨリ漸次上昇シ、38度ヲ上下ス。以後時々全身倦怠感及熱感アリ。胸部所見ハ囉音増加ス。

喀痰量増加シ、血壓ハ漸次上昇ス。然レドモ體重ハ不變、赤血球沈降速度ハ漸次促進ス。

赤血球數及血色素量ハ幾分減少ノ傾向アリ。

血像ハ左側推移輕減セルモ、後增強セリ、多核白血球數ハ漸次増加シ、淋巴細胞減少ス。10月22日以後ノ検査ニ「エオジン」嗜好性白血球消失ス。

血糖ハ注射前空腹時血糖量0.091%試験食後最高0.200%ニテ、空腹時血糖量復歸遲延セルモ、注射後ハ空腹時血糖量漸次減少シ、試験食後最高ハ0.130%トナリ、注射開始後ヨリ空腹時血糖量復歸ニ遲延ヲ認メズ。尿糖反應陰性ナリ。尿「クレアチン」ハ注射後中頃ニ増加ノ傾向ヲ示シ、尿「クレアチニン」ハ療法後期ニ幾分減少ノ傾向ヲ示ス。

「クロナキシ」ハ一時發熱シタルタメ、測定ヲ中絶セルモ、當始ヨリ屈伸比著シク接近シ、最後迄、殆ンド變化ヲ見ザリキ。

基礎代謝、酸素消費量増加シ、肺活量分時搏出量、搏動量皆減少ス。

宮 澤

月 日	喀痰量 cc	血 壓	體重 Kg
9月17日	80	94—62	39.0
.. 22日	→ 注射開始 ←		
.. 25日	94	95—63	40.1
10月 1日	94	97—70	39.3
.. 8日	95	97—60	39.9
.. 16日	112	101—64	39.2
.. 22日	120	106—69	38.9
.. 29日	120	102—67	39.0
11月 5日	120	107—70	39.0
.. 11日	130	105—72	39.3
.. 18日	112	107—71	39.2
.. 25日	110	107—72	39.1

宮 澤

月 日	赤血球沈降速度			
	一時間	二時間	中等價	二十四時
9月18日	75	98	62	125
.. 22日	→ 注射開始 ←			
10月 5日	80	95	63.8	124
.. 22日	84	110	69.5	139
11月15日	88	100	69.0	130

宮 澤

月 日	赤血球數 萬	白血球 數	血色素 量	色素指數	「エオジン」嗜好 白血球	「メタ」 骨髓細胞	桿狀核 白血球	分核性 白血球	淋巴細胞	大單核 移行型
9月18日	497	5500	85	0.85	2.3		17.7	43	32	5
.. 22日	→ 注 射 開 始 ←									
10月 1日	462	4200	80	0.87	3.7		11.0	51	22	12.3
.. 22日	443	6700	83	0.94	(—)		13.3	62.3	12.3	12
11月15日	463	6800	84	1.02	(—)		20.7	57	13.3	8.6

宮 澤

時間 月 日	血 糖 檢 査						
	空腹時	30分	1時間	1時間半	2時間	2時間半	3時間
9月20日	0.091	0.200	0.176	0.119	0.114	0.112	0.100
.. 22日	→ 注 射 開 始 ←						
10月 3日	0.092	0.205	0.174	0.141	0.106	0.090	0.870
.. 22日	0.081	0.172	0.179	0.164	0.125	0.090	0.081
11月15日	0.070	0.102	0.130	0.125	0.091	0.077	0.070

宮澤

月日	尿量	比重	「クレアチニン」 mg	「クレアチニン」 mg	「クレアチニン」 mg
9月18日	1480	1010	756	679	77
.. 22日	→ 注射開始				
.. 23日	1950	1012	885	735	150
.. 27日	2375	1011	978	880	8
10月2日	2100	1012	896	820	76
.. 7日	2150	1013	955	882	73
.. 12日	1400	1014	779	700	78
.. 17日	2360	1017	876	741	135
.. 22日	2250	1011	785	681	104
.. 27日	1962	1011	849	716	133
11月1日	2220	1011	825	736	89
.. 6日	1770	1011	802	672	130
.. 11日	1800	1012	663	580	83
.. 16日	1475	1012	555	517	38
.. 21日	1560	1012	844	703	141

宮澤

月日	Ch(σ) Rh(v)	總指伸筋	淺屈指筋	二頭膊筋	三頭膊筋
13/IX	Ch 0.228	60	45	45	75
..	Rh	60	45	45	75
19/IX	Ch 0.240	64	45	48	70
..	Rh	64	45	48	70
9/X	Ch 0.240	50	45	58	70
..	Rh	50	45	58	70
29/X	Ch 0.312	40	40	55	60
..	Rh	40	40	55	60
20/XI	Ch 0.240	65	70	70	90
..	Rh	65	70	70	90

姓名	年齢	月日	體重 (Kg)	身長 (cm)	體表面 (Sq.m)	脈搏	尿酸量 (cc)	基礎代謝	肺活量 (cc)	血壓		Minutenvolum			Schlagvolum (cc)	
										max	min	L	pro Sq.m (L)	pro Kilo (cc)		Pro Sq.m
宮澤注射	42	18/IX	38.7	157	1.34	75	183	+17.2	1800	95	70	5.2	3.89	135	69.5	52
		22/X	38.9		1.32	78	254	+59.0	1500	100	70	4.8	3.64	123.5	61.5	46.5
		15/XI	38.2		1.32	80	222	+40.6	1200	102	75	4.2	3.18	110.0	52.5	39.0

第5例

患者 菅某 26歳 旋盤工。

診斷 肺結核。

現病歴 14歳扁桃腺炎後咳嗽、喀痰アリ。18歳全身倦怠、食慾不振、肺尖加答兒ト診斷サレ。23歳熱感、呼吸困難アリ半年醫治ヲ受ケ輕快、昭和11年4月初旬頃ヨリ再ビ歩行ノ際顔面ニ熱感アリ、呼吸困難ヲ覺ユ。昭和11年7月3日入院。入院後食慾恢復シタルモ、全身倦怠、肩凝、盜汗ハ去ラズ、本實驗施行前ノ主訴ハ全身倦怠、盜汗、睡眠障碍等ナリ。

注射前ノ所見 體格、營養中等。淋巴腺腫大ヲ認メズ。脈搏78、大サ、緊張中等。呼吸22、顔面ハ幾分蒼白、眼瞼結膜ハ正常、舌ニ薄キ白苔ヲ蒙ル。扁平胸ニシテ、肺臟ハ右肺上部短濁音ヲ呈シ、呼氣延長シ、鋭シ。咳嗽ニ際シ、濁音部ニ少數濕性囉音ヲ聽ク。心臟第二肺動脈音強調セル外變化ナク、腹部及四肢ニハ異常ヲ認メズ。便通ハ1日1回、體温ハ37.5度、喀痰ニ結

菅

月日	喀痰量 cc	血壓	體重 Kg
9月17日	60	109-71	43.2
.. 22日	→ 注射開始		
.. 25日	50	96-56	43.5
10月1日	70	99-64	43.8
.. 8日	80	102-64	44.3
.. 16日	80	105-54	44.6
.. 22日	90	103-71	44.4
.. 29日	70	102-62	44.3
11月5日	50	111-68	44.3
.. 18日	31	113-71	44.7
.. 25日	40	110-62	44.3

菅

月日	赤血球沈降速度			
	一時間	二時間	中等價	二十四時間
9月18日	35	67	34.3	120
.. 22日	→ 注射開始			
10月7日	35	67	34.3	115
.. 23日	52	80	46	124
11月19日	38	65	35.3	118
.. 21日	13	40	16.3	115

菅

月 日	赤血球數 萬	白血球數	血色素量	色素指數	「エオジ ン」嗜好 細胞	「メタ」 骨髓細胞	桿狀核 白血球	分核性 白血球	淋巴細胞	大單核 移行型
9月18日	398	8600	80	1.02	1.3		9	52	34.7	3
.. 22日	→ 注 射 開 始 ←									
10月4日	413	8750	85	1.02	4		3.7	53.7	33	5.7
.. 23日	418	7600	93	1.10	1		3.6	49	40.7	5
11月10日	439	8700	95	1.12	1.7		6	52	33.3	6.7
.. 21日	421	8800	90	1.08	2.7		1.3	62.7	29.7	3.7

菅

時 間 月 日	血 糖 檢 査						
	空腹時	30分	1時間	1時間半	2時間	2時間半	3時間
9月19日	0.062	0.093	0.072	0.085	0.068	0.070	0.060
.. 22日	→ 注 射 開 始 ←						
10月4日	0.099	0.118	0.104	0.097	0.088	0.097	0.093
.. 23日	0.078	0.103	0.102	0.093	0.096	0.084	0.091
11月9日	0.079	0.112	0.112	0.093	0.088	0.082	0.079

菅

月 日	尿量	比重	總「ク レ アチ ニン」 mg	「ク レ アチ ニン」 mg	「ク レ アチ ン」 mg
9月17日	500	1026	658	566	92
.. 22日	→ 注射開始				
.. 23日	1230	1015	908	769	137
.. 27日	620	1020	588	531	57
10月2日	816	1020	685	597	88
.. 7日	462	1025	415	346	69
.. 12日	553	1029	542	429	113
.. 17日	600	1024	623	526	97
.. 22日	520	1025	538	496	42
.. 27日	750	1021	430	392	38
11月1日	642	1022	601	562	39
.. 6日	780	1022	735	664	71
.. 11日	1320	1014	788	726	62
.. 16日	1860	1015	820	782	38
.. 21日	1700	1010	619	607	12

菅

月 日	Ch(σ) Rh(v)	總指 伸筋	淺屈 指筋	二頭 膊筋	三頭 膊筋
12/IX	Ch	0.160	0.128	0.080	0.144
	Rh	55	62	35	80
18/IX	Ch	0.168	0.144	0.088	0.148
	Rh	55	60	30	80 ←注射
8/X	Ch	0.240	0.160	0.092	0.144 22/IX
	Rh	40	40	30	80
22/X	Ch	0.408	0.400	0.08	0.136
	Rh	40	42	30	80
3/XI	Ch	0.408	0.400	0.08	0.360
	Rh	35	40	35	50
18/XI	Ch	0.268	0.262	0.08	0.408
	Rh	37	30	30	65

姓 年 月	體 重 (Kg)	身 長 (cm)	體 表 面 (Sq.m)	脈 搏	酸 費 量 消 (cc)	基 礎 代 謝	肺 活 量 (c.c.)	血 壓		Minutenvolum			Schlagvolum (c.c.)			
								max	min	L.	pro Sq.m (L)	pro Kilo (cc)	pro Sq.m.			
菅 注 射 →	26	27/VIII	39.4	161	1.37	72	194	+18.5	1800	105	70	4.17	3.04	105.5	57.9	42.2
		3/X	40.2		1.37	72	217	+37.7	1900	103	60	4.57	3.34	113.5	63.5	46.3
		9/X	44.3		1.43	75	198	+9.6	1800	98	68	4.23	2.96	96.0	56.5	39.5
		23/X	44.4		1.43	70	222	+26.6	2000	108	75	4.42	3.09	100.0	63.5	44.4
		18/XI	43.8		1.41	61	229	+17.5	2000	120	85	4.5	3.18	102.5	73.7	52.3

核菌(+)、マントー氏皮内反應(卅)、尿ニ所見ナク、糞便ニハ寄生蟲卵潛出血、結核菌陰性。

注射後成績

1週間後全身倦怠去リ、睡眠良好トナル、15、6日ヨリ盜汗消失シ、體温ハ10日目頃ヨリ漸次降下シ來リ、20日後ハ輕度弛張スルモ37度ヲ越エズ、1ヶ月目ヨリ常温トナル。

胸部所見ハ右上胸部ハ尙呼氣延長スルモ囉音ヲ聽カズ喀痰量ハ少シ。

血壓ハ漸次上昇シ、體重ハ注射前ニ比シ1匁増加セリ。

赤血球沈降速度ハ中頃促進セルモ漸次遲延シ、11月21日注射前ニ比シ遙ニ遲延セリ。

赤血球數及血色素量ハ漸次増加シ、血像ハ注射前左側推移ヲ示シタルモ、注射後右傾ス。

總

「食慾」。第1、第2、第3例ニ増進シ、第4、第5例ハ變化ナキモ食慾不振ニ陥レルコトナシ。

「倦怠感」。第4例ノ外漸次消退セリ。

「盜汗」。第1、第5例ハ消失セリ。

「體温」。第1、第2第5例ハ降下シ、第3例ハ漸次降下セルモ合併症以後上昇セリ、第4例ハ降下セズ。

「體重」。第1、第2第5例ハ増加シ第4例ハ始め増加セルモ合併症起リテ後減少セリ。第5例ハ不變。

「血壓」。肺結核ニ於テハ低キヲ常トシ、漸次降下スルモノハ豫後不良ナリ。第1例、第2例ハ殆ド變化ナク、第5例ハ上昇セリ、而シテ第3例ハ一時各症狀増悪セルモ血壓ハ上昇セリ、又第4例モ上昇ス。

「喀痰量」。第1例ハ減少、第2、第5例ハ不變、第3、第4例ハ増加セリ。

血痰アリシ第1例、第4例ハ注射後次第二ソノ色稀薄トナリ、1週間後ハ消失シテ以後血痰ヲ見ズ。

「胸部所見」。第1、第5例ハ囉音減少ヲ認メルモ、他ノ3例ハ増加セリ。

血糖ハ注射前空腹時血糖量0.062%、試験食後最高0.093%ニテ幾分低血糖ナリシモ、注射後一時上昇シテ後ハ幾分減少ノ傾向ヲ示ス。

尿「クレアチン」ハ注射後幾分減少ノ傾向ヲ示シ、尿「クレアチニン」ハ後期幾分増加ノ傾向アリ。

「クロナキシー」ハ著變ヲ認メザルモ、全體トシテCh値ハ漸次増大スル傾向ヲ有シ、注射後1ヶ月ヨリ、1月半ニテCh値ハ最も増大スルヲ認メタリ。

基礎代謝ハ1週間目ニ稍々上昇セリ。其ノ後ハ注射開始前ト大差ナシ。

肺活量酸素消費量分時搏動量及ビ搏動量ハ皆増加セリ。

括

赤血球沈降速度ハ第1、第5例ハ幾分遲延セルモ、他ノ3例ハ促進セリ。

赤血球數、血色素量ハ第4例ヲ除ク外増加セリ。

「血像」。第1例第3例ニ於テ左側推移第2、第5例ハ著變ナク、第4例合併症後ニ第5例ハ漸次左側推移シ、「エオジン」嗜好細胞消失シテ増悪セリ。

「血糖」。Dalt, Emilio, Drabika Sylla 等ニ依レバ進行性ノモノハ過血糖ヲ、停止形ノモノハ稍々正常値ニ近シト云フ。第1、第2、第3(合併症前迄)、第4例ハ比較的過血糖ヲ示セルモ、注射後空腹時血糖量及試験食後最高血糖量漸次降下シ大體正常値ニ復セリ。第5例ニ於テハ當始幾分低血糖ヲ示セルモ、注射後正常ニ復シ再ビ降下シ、第4例ハ合併症後ハ血糖量再ビ増加セリ。

「クレアチン尿」。Valdes Lambaeニ依レバ重症結核ハ尿ニ「クレアチン」ヲ排泄シ、良好ノ經過ヲ取ルモノハ減少スト、第1、第3例(合併症前)第5例ニハ幾分減少ノ傾向ヲ見、第2例、第3例(合併症後)、第4例ハ幾分増加セリ。

「クロナキシー」。第1例ニ於テCh値及ビ筋屈

伸比ハ正常値ニ復スルヲ認メタルモ他ハ著變ヲ認メザリキ。

「基礎代謝」。結核ニ於テハ重症ニ至ルニ從ヒ漸次上昇ヲ見、特ニ滲出性活動性ノモノニ高く、増殖型之ニ次ギ、硬化型竝ニ初期無熱者ニ於テハ殆ンド生理的狀態ニ在リ故ニ之ヲ連續的ニ觀察スル時ハ病狀ノ輕重ヲ判斷スルニ便ナリ。第1例、第5例ハ不變、第2例ハ一時上昇ヲ見タルモ再ビ下降シ、第3、第4例ハ上昇セリ。即チ第1、第2、第5例ハ經過良好ナリシモ、第3、第4例ハ増惡セリ。

「肺活量」。心臟疾患、脚氣、肋膜炎、肺結核等ニ於テハ病狀ニ平行シテ肺活量上下シ、輕快スルニ從テ肺活量ハ増ス。第1、第2第5例ハ一定又ハ稍々増大ヲ見タルモ、第3例ハ減少ス。

「分時搏出量」。動靜脈血酸素量ノ差ヲ以テ酸素消費量ヲ除シタル商ヲ以テ間接ニ測定ス。而シ

テ分時搏出量ハ血中瓦斯量又ハ循環系狀態ニ應ジテ變化シ、血液内炭酸増加又ハ酸素缺乏ノ場合ハ脈搏數又ハ搏動量ヲ増加ス、肺結核ニ於テハ呼吸面積ノ縮小、肺循環總斷面積ノ縮小ハ想像サレ得ル所ニシテ血流ノ抵抗増大ニ對シテ搏出量ノ減少モ想像サル。又心筋力ノ如何モ關係アリ、第3、第5例ニ於テ増大シ、第3例ニ於テハ脈搏數増加セルモ、搏動量ハ一定ス、之一反シ、第5例ニ於テハ脈搏數ハ略々一定ナルモ、搏動量増加シ、爲ニ搏出量増加セルナリ。第1、第2例ニ於テハ大體不變ナリ。第4例ニ於テハ脈搏數ハ却テ増加シ居リ、搏動量ハ減少ヲ見ル。即チ搏出量減少ハ搏動量ノ減少ニ依ル。以上各方面ヨリ觀察セル結果ハ第1例第5例ハ良好ノ影響ヲ認メ、第2例ハ幾分良好、第3例ハ合併症前ハ幾分良影響ヲ見タルモ、合併症後ハ好影響ヲ認メズ。第4例ハ好影響ヲ認メズ。

總 括

	I 例松村	II 例神下	III 例金	IV 例宮澤	V 例菅
食慾	増進	増進	増進	不變	不變
倦怠感	消失	消失	緩和	一時緩和	消失
盜汗	消失				消失
體溫	降下	降下	合併症前ハ降下 合併症後ハ上昇	上昇	降下
體重	増加	増加	合併症前増加 合併症後減少	不變	増加
血壓	不變	不變	上昇	上昇	上昇
咯痰量	減少	増加	増加	増加	不變
血痰	消失			消失	
胸部所見	囉音減少	囉音増加	囉音増加	囉音増加	消失
赤沈	遲延	促進	促進	促進	遲延
赤血球數及血色素量	増加	増加	増加傾向	減少傾向	増加
血像	良好	不變	合併症前良好 合併症後増惡	一時好徵後増惡	不變
血糖	減少	減少	減少	減少	一時増加後減少
尿「クレアチン」	減少傾向	増加傾向	合併症前減少傾向 合併症後増加	増加傾向	減少傾向
「クロナキシ」	正常値ニ接近	著變ナシ	著變ナシ	著變ナシ	著變ナシ
基礎代謝	不變	不變	合併症前不變 合併症後増加	増大	不變
肺活量	不變	不變	合併症前不變 合併症後減少	減少	輕度増加
分時搏出量	不變	不變	増大	減少	輕度増大
患者經過	良好	幾分良好	合併症前幾分良好 合併症後不良	不良	良好

結 論

重症ナラズシテ、症状ニ著シキ變化ヲ呈セザル男子患者5名ニ就キ、「インテレン」1 cc毎日64日間皮下注射、「アスコルチン」2 cc(「ビタミン」C 100mg 含有)隔日54日間靜脈注射、以後「アスコルチン」ハ増量シテ2 cc毎日皮下注射シテ得タル長期療法ノ結果次ノ如シ。

1. 食慾増進シ體重増加ス。
1. 倦怠感ヲ緩和又ハ消失ス。
1. 盜汗血痰ヲ消失セシム。

1. 體溫降下シ血壓ヲ幾分上昇ス。
1. 喀痰量ニハ影響ナシ。
1. 赤血球沈降速度ニ對シテモ影響少シ。
1. 赤血球數及血色素量ヲ増加シ白血球左側推移ヲ輕減ス。
1. 過血糖状態ニアリシモノヲ正常血糖ニ復歸セシムルモノ、如ク。尿「クレアチン」ハ幾分減少ス「クロナキシー」基礎代謝量肺活量分時搏動量ニ對シテ著シキ影響ヲ見ズ。

主要文献

- 1) Thaddea, Kl. Wschr, Nr. 36, 1275, (1935).
- 2) Thaddea, D. M. W. Nr. 28, 1117, (1936).
- 3) Thaddea, D. M. W. Nr. 29, 1171, (1936).
- 4) Bernhardt, D. M. W. Nr. 28, 1123, (1936).
- 5) Herbrand, D. M. W. Nr. 28, 1130, (1936).
- 6) A. Dietrich, Zbl. Path. 29, 169, (1918).
- 7) W. Stepp u. P. Gyrörgy, Avitaminosen S. 521. Berlin (1927).
- 8) F. Hasserbauch, Deutsches Tbc-Blatt 186, (1936).
- 9) Wiclenbauer, Kl. Wschr Nr. 33, 1158, (1936).
- 10) A. Sylla, Med. Kl. II 1680, (1931).
- 11) Schröder, Zbl. f. gesamm Tbcforschung Bd. 25, 188.
- 12) 西垣氏等, 結核, 第14卷, 10號, (昭和十一年).
- 13) 藤井美知男, 内外治療, 1038, (昭和六年).
- 14) 高龜, 結核, 第三號, (大正十四年).
- 15) 加藤, 山口, 醫事新聞, 第1233號, (昭和3年).